

杓

〔松屋文集〕上養素園のことは

階ちかく手洗ふべき水いれたるものは寛文の五とせといひしとしにつくれりし堀川のかは
かみなるかめのはしのはしぐひの石なりとぞ、

〔人倫訓蒙圖彙〕四庭石屋 海山の石、蔭石、石船、井筒、石樋、手水鉢等也、京万壽寺通、烏丸の西、大坂は、
横堀にあり、

〔饅頭屋本節用集〕財比柄杓ヒシヤク

〔書言字考節用集〕器七財杓ヒシヤク唐韻器料 柄杓和俗所用、
ヒシヤクシ又作檜杓、

〔雍州府志〕七土産竹屋

柄杓。汲湯之具也。竹筒存節二寸許切之。横貫竹柄。以之杓湯井水。檜杉柄杓。檜物屋造之、

〔女禮秘傳集〕湯柄杓之事。口の纏り五寸計。深サも五寸計にして、えを一尺五寸計にする也、

〔北山抄〕四月八日灌佛事

次親王以下進自簀子。入自額間。跪机前。搯笏膝行。取黑漆杓。酌東邊鉢水。先酌南鉢水、膝行灌佛一杓。
安杓退而禮佛一度。把笏左廻出。自初間。略下

〔盤山和尚清規〕下年中行事三四月七日。略中 若騰散行。採華來。宿老龕邊打調。日內莊嚴佛龕。佛前安排、

殿主聚採五木。曉更煎取。入淨鉢。立誕生佛。置兩杓。香華供養、

〔薩戒記〕應永卅二年八月十一日丁丑。今夜釋奠也。略中 次主水官人供手水。於木爲手力、上卿懷中

笏被洗手。次予插笏於左腋前方洗手。略下

〔諱話浮世風呂〕四編上秋の時候

番公の居ねむりはまだい、が湯汲の居睡るのがおそれるせ、今時分はい、けれど冬寒くてが
たがた震ふをもかまはず、小さな柄杓でだらりだらりと汲やつさ、あんまり心いきがねへ、